

2010～2011年に岐阜及び愛知県内の医療関連施設より分離された肺炎球菌の薬剤感受性

¹富山化学工業株式会社 総合研究所、²東海アンチバイオグラム研究会ワーキンググループ

○江藤 麻希¹、高倉 真理子¹、杉浦 陽子¹、福田 淑子¹、野村 伸彦^{1,2}、満山 順一^{1,2}、浅野 裕子²、末松 寛之²、澤村 治樹²、松原 茂規²、松川 洋子²、山岡 一清²、渡邊 邦友²、山岸 由佳²、三嶋 廣繁²

【目的】肺炎球菌は呼吸器感染症の主要原因菌で、 β -ラクタムやマクロライド等の各種抗菌薬に対する耐性化が問題となっている。今回我々は耐性化動向を調査するため、岐阜及び愛知県内で分離された肺炎球菌の薬剤感受性、PBP 遺伝子変異及びマクロライド耐性遺伝子の有無、亜型を含む血清型について検討した。

【材料・方法】2010～2011年に岐阜及び愛知県内で分離された肺炎球菌 258 株を用い、PCG, AMPC, CVA/AMPC, PIPC, TAZ/PIPC, CFTM, CDTR, CFPN, CFDN, CTRX, FMOX, IPM, MEPM, PAMP, DRPM, GRNX, LVFX, MFLX, TFLX, PZFX, CAM, AZM, MINO に対する薬剤感受性を微量液体希釈法にて測定した。

PBP 遺伝子 (*pbp1a*, *pbp2x*, *pbp2b*) 変異及びマクロライド耐性遺伝子 (*mefA*, *ermB*) の有無は PRSP 遺伝子検出試薬 (湧永製薬) を用いて検出した。血清型及びその亜型の判定にはそれぞれ肺炎球菌莢膜型別用免疫血清 (デンカ生研) 及び PNEUMOCOCCAL ANTISERA (STATENS SERUM INSTITUT) を用いた。

【結果】全 258 株に対する GRNX の MIC₉₀ は 0.0625 μ g/mL で、測定薬剤中最も低く (MIC₉₀: GRNX, 0.0625; PAMP, 0.125; IPM, DRPM, TFLX, 0.25; CDTR, MEPM, MFLX, 0.5; AMPC, CVA/AMPC, CFTM, CFPN, CTRX, 1; PCG, PIPC, TAZ/PIPC, LVFX, PZFX, 2; CFDN, FMOX, 4; MINO, 16; CAM, AZM, >64 μ g/mL), 同地域における過去の結果と比較し、測定薬剤の MIC₉₀ に大きな変化は認められなかった。

PBP 遺伝子 3 箇所 (*pbp1a*, *pbp2x*, *pbp2b*) 全てに変異を有する gPRSP は 112 株 (43.4%), マクロライド耐性遺伝子 (*mefA* または *ermB*) 保有株は 241 株 (93.4%) であった。血清型及び亜型別では、6 型: 23.6% (6B: 14.0%, 6A: 9.7%), 19 型: 18.2% (19F: 13.2%, 19A: 5.0%), 23 型: 9.3% (23F: 7.8%, 23A: 1.6%) の分離頻度が高く、19F における gPRSP の割合は 97.1% と他の亜型と比較して高かった。(会員外共同研究者: 荒井 亨², 川原 佑貴², 寺地 真弓², 宮部 高典²)

長野県北信地域における *Streptococcus pneumoniae* の MEPM 耐性傾向

¹長野中央病院 薬局、²長野県松本保健福祉事務所検査課、³長野市民病院薬剤部、⁴JA 長野厚生連北信総合病院薬剤部、⁵北信感染症ネットワーク

○松岡 慶樹^{1,5}、鹿角 昌平^{2,5}、丸山 晴生^{3,5}、清原 健二^{4,5}、久保田 健^{4,5}

【背景】地域、病院で臨床分離株の感受性を定期的に調査しその現況を把握しておくことは極めて重要といわれており、長野県北信地域に属する 7 施設において各施設の抗菌薬使用密度 (AUD: Antibiotic Usage Density) と薬剤感受性データの収集、検討してきた。今回、我々は、臨床分離株に対する各種抗菌薬の抗菌力が地域、あるいは施設によりかなり異なるという多数の報告が存在する中、長野県北信地域においての地域、施設の差異はあるものの MEPM に対して *S. pneumoniae* の耐性傾向があることを見いだしたので報告する。【対象・方法】長野県北信地域に属する 7 施設 (長野赤十字病院、長野市民病院、NTT 東長野病院、県立須坂病院、北信総合病院、飯山赤十字病院、長野中央病院) における、2006 年 1 月から 2010 年 12 月の 5 年間の各施設の細菌感受性を収集し、2006 年から 2010 年の各施設合わせた平均をその年の北信地域の感受性とし、2006 年から 2009 年の平均±標準偏差を基に 2010 年の各施設と北信地域の耐性率の傾向を調べた【結果・考察】長野県北信地域 7 施設全体としての *S. pneumoniae* の MEPM に対して耐性率の経過は 2006 年 7%、2007 年 25%、2008 年 14%、2009 年 14% であり、平均±標準偏差は 15 ± 7.6 2010 年は耐性率 20% と耐性傾向を示した。また、個々の施設で見ると耐性率が上がった施設が 4 施設、下がった施設が 2 施設、不明が 1 施設であった。以上、今回の地域単位という広い視点での *S. pneumoniae* の MEPM への耐性化傾向が明らかになったことから、臨床における *S. pneumoniae* に対する MEPM 感受性には注意が必要である。また、薬剤との連続接触において MIC が上昇したことが報告されているなど、地域施設での薬剤の使用状況を経時的に把握し、適切な薬剤の選択が、今後の更なる耐性化に重要と考える。